

令和2年度第6回気仙沼防災フォーラム(第34回防災文化講演会)を開催しました (2021/01/26)

テーマ：市民みんなで考える防災、気仙沼市

会場：【市内中高生】各校、【一般参加者】気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館、気仙沼市ワントン庁舎、鹿折公民館、中央公民館（宮城県気仙沼市）

URL：<http://irides.tohoku.ac.jp/organization/kesennuma/kouenkai.html>

1月26日（火）、気仙沼市と同教育委員会主催、当研究所と気仙沼ESD/RCE推進委員会の共催、気仙沼市立小・中学校安全担当主幹教諭研修・会議の皆様の企画・運営で、令和2年度「第6回気仙沼市防災フォーラム」が開催されました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策として数か所の会場を設け、各会場を繋いでのオンライン開催となりました。

本フォーラムは、当研究所が気仙沼市で開催している防災文化講演会（今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため未開催）の第34回目としての位置づけもあります。昨年に続き「市民みんなで考える防災」をテーマに、市内の中高生を始め学校関係者や自主防災組織等地域住民約120名が参加しました。本研究所から佐々木宏之准教授（災害医学研究部門）および佐藤翔輔准教授（情報管理・社会連携部門）が参加しました。

はじめに、面瀬中学校の生徒による地域防災訓練について、鹿折まちづくり協議会から避難所運営についての実践発表がありました。基調講演では、当研究所の佐々木宏之准教授から「ネット情報に医療的見地を加えて読み解く、コロナ禍での避難所運営のススメ」という演題で講演があり、講演後には、「コロナ禍における避難訓練または避難所運営」をテーマに3団体のパネラーで意見交換が行われました。最後に、当研究所の佐藤翔輔准教授が講評・コメントを行い、盛会のうちに終わりました。



佐々木宏之准教授（基調講演）



会場の様子
(気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館)



各会場の様子



佐藤翔輔准教授（講評）